

## 報告書 9: 2025 年 6 月 黒岩 麟平

もうすぐ PhD4 年目が終わり、5 年目に突入していきます。ボルチモアの気温も上がり始めていますが、例の如く、こちらではアホほど冷房ガンガンなので、夏はいえ屋内では羽織るものが欠かせない日々が始まろうとしています。

### 1 研究

過去 3 年取り組んでいたプロジェクトをある程度をまとめて、論文投稿しました。まだまだしたい実験はあったのですが、すでに論文化は可能な状態で、したい実験は査読中にもでも行えるものでした。今後の予定のためにも、早めに仕事を形にしておきたいので、投稿をすることにしました。ひとまず査読が返ってくるまでの間、追加の実験をしつつ、これまで途中で追うのをやめた派生プロジェクトや、今回の論文で省いたデータから延長でしたいプロジェクトなど、短期間で成果が見込めるものが、いくつかあるので、ゆるっと進めています。興味本位で、学部生を夏の間お世話をすることにしたので、いろいろバタバタしていますが、うまくリソース管理してやっていけたら、と思っています。

5 月末にスイスへ学会に行き、ポスター発表をしました。相分離をはじめとして、細胞質の物性にまつわる学会で、有意義な意見交換ができました。また、今後の進路先を考えるにあたって、有益な情報や出会いを得られました。船井奨学生の大島知子さんも参加しておられました。大島さんのポスターを見て伺った時に声をかけて下さるまで気づいていおらず、他も、話す機会が特にありませんでしたが、大島さんの PI が大島さんを大層ほめておられました。100 人程度の小さい学会だったので、思いがけない出会いでした。

### 2 その他

前述の学会の後には、ミラノとウィーンに旅行に行きました。各地で友人にも会って語らい、楽しい旅行でした。ウィーンは 18-19 世紀に西洋音楽文化の中心とも言われるほどであったため、数々の作曲家ゆかりある地で、街の至る所に音楽や音楽家に関する像、名称などが見付き、面白かったです。著名な音楽家のお墓もあるため、墓地巡りもして、特に好きな作曲家 top5 には入る二人のお墓にも行け、一人でキャッキャしていました。

学会の時にはついでにコンサートに行く、という目論見が常にありますが、今回はミラノ、ウィーンでひとつづつオケを聴きに行くことができました。ミラノは後期ロマン派ドイツ音楽のプログラムでしたが、イタリアらしく派手で、陰鬱さが少なめの演奏でした。個人的にはイマイチでしたが、聴衆には大変ウケており、お国柄を感じる経験でした。ウィーンではウィーン交響楽団の方のコンサートに行きましたが、特に管セクションのレベルが高く、感動しました。余談ですが、各地、それなりに観光客が多いところでも、聴衆のマナーが大きく異なっていて、毎回不思議に思っています。

最後になりますが、引き続きのご支援ありがとうございます。今年の交流会は参加するので、みなさんにお会いするのはもちろんのこと、せっかくの機会なので、延泊して自然を満喫するのが楽しみです。